

平成26年10月26日執行

# 福島県知事選挙選挙公報

福島県選挙管理委員会



無所属

いせき あきこ

五十九歳

### ○主な経歴

- 一、昭和五十二年 武蔵大学社会学科卒業
- 二、セブンイレブン真摯橋店店長 北塩原村秋元区長
- 三、佐藤栄佐久知事時代 審議委員歴任

### ○脱原発・正確なデータ発信

私たち福島県民は、原発の恐ろしさを身をもって知りました。その苦しみが今も続いています。原発の中はどうなっているのか？急に爆発したりしないのか？次に事故が起きた時の避難経路は確保されているのか？安全かどうか？わからないのに帰還を促す県政は大丈夫なのか？小児甲状腺がんは四年前経過が基準になつていますが、当時のチェルノブイリにエコー装置導入されたのが四年後だったこと、ベラルーシ調査が始まったのが七年後だったことを知っていないながら「あなたのお子さんの甲状腺がんは今回の原発事故は関係ありません」と告げるのだろうか？今、私たちがそれぞれの立場で頑張っていることが、政治のサジ加減一つで「事故があったって、福島は頑張つてこんなに復興しているじゃないか」とまるで第二、第三の福島が出て大丈夫かのように扱われてしまうのではないかと？世界の為、アジアの為、もちろん子供・孫たちの為にも、戦争のなかった国・日本が本当の数字、正確なデータを発信し続けなければなりません。前佐藤栄佐久知事が当時語っていました。「僕は、国の原子力政策に風穴をあけたいんだよ」

### ○国・東電の責任試算

あらゆる角度からの責任をまず国と東電に試算させます。そこを明らかにせず、復興を進めている今が何かうわすべりに見えて、不安です。ただし、正確な試算を出した後は、国と東電、県民が対峙するのではなく、一緒に世界にむけて試行錯誤する姿を発信します。

原発事故後初のこの知事選は私たち全員がこれからの生き方の原点とする選挙です。100%の投票にしましょう。県民の心のデモにしましょう。史上最短で国の責任を問えば、沖縄・広島・長崎もあとに続きます。原発事故当初、国って？法律って？議員って？メディアって？と感じた気持ち思い出し、組織ではなく個人としての決断にしましょう。

### ○県庁の除染、機能の移転・分散（郡山、会津若松など各所）

- 近隣 近国を支援できる設備 システム（首都圏大地震・噴火に備え）
- 農林水産省、環境省を福島に設置
- 福島県民全員補償（県外避難者も）
- 松原湖、猪苗代湖等の湖底除染（水質・農産物・米・酒を守る）
- 補償金と補助金の利益扱いを中止
- 仮称・教育国連設立の為の国際大会（十二年前に県へ提案）
- 世界のフクシマへ成長（語りべとして世界へ出ていく）
- 知事は一期四年（原発のメドがつくまで）
- 女性の声を国に届ける

年頃の娘を持つ私の直近の悩みは、結婚・出産・子育て・教育・経済力です。戦後の日本をここまでにしてきた元氣な八十年代のおじちゃん、おばちゃんが「第二次世界大戦が始まる前に似ている」と心配しています。最後に生涯忘れられない声  
「目の前で主人と舅が津波に流されたけれど、原発で探しに行けないの」  
浪江の二婦人の生命の叫びです。



無所属

内堀まさお

50才

### 私の決意

未曾有の大災害から三年半。皆さんと力を合わせ、先人の皆さんの県づくりへの努力を引き継ぎ、福島県の未来を切り開きたい一心で立候補を決意しました。「みんなでチャレンジ！新生ふくしま」魅力と誇りにあふれるふくしまの未来に向かって、情熱と責任感を原動力に全力を尽くす覚悟です。

### 県政運営の5つの基本方針

- ① 県内原発の全基廃炉と事故の収束に力を注ぐ
- ② 現場主義。実情を見聞きし県政を創る
- ③ 避難地域を復興させ県全体を元気にする
- ④ 「福島県で良かった」と思える豊かなふくしまを創る
- ⑤ あらゆる場面でトップセールスを行う

### ◆原子力災害からの復興・再生を進めます！

避難地域が世界からも注目されるような復興を遂げ、震災前より発展すること、避難者の生活再建をはじめ福島県全体の豊かさにつながります。その道標となる将来像を県民の皆さんと一緒に描き、実現させてまいります。

### ◆安全・安心・活力ある地域社会を創ります！

津波災害からの復興や危機管理、災害対策に万全を期してまいります。住んでいる方も訪れた方も魅力を感じる、日本一健康長寿な県づくりを進めます。女性が生き生きと活躍する地域は元氣です。女性の視点や発想を取り入れ、元氣な福島県を創ります。

### ◆日本一の子育て環境を創ります！

子どものための政策は、未来づくり政策の第一歩。英語や理数、異文化を理解する教育、力を入れるとともに、科学、文化、スポーツなどにおいて本物で学べる環境を整えます。また、親への支援、子育て世代の働き方、地域の関わりなど、オール福島で皆さんの知恵を集めて、果敢に取り組みしてまいります。

### ◆強い農林水産業の再生を進めます！

福島が誇る農林水産業を未来につなげるため、担い手が魅力を感じる環境づくりを進めながら、農家の皆さんと一緒に、日本一「トッパ」ランドづくりを進めます。

### 8つの基本政策

### ◆全ての資源を観光につなげ交流を増やします！

「食、自然、歴史、文化、人」福島の魅力を引き出し、観光・交流を増やします。教育旅行や合宿の地を復活させ、広島・長崎のような教訓を伝えるふくしまや尾瀬・只見ユネスコパークのような心に刻まれるふくしまを目指します。

### ◆ふくしまに新たな産業の革命を起こします！

医療機器開発、安全性評価センターや福島再生可能エネルギー研究所などの新たな研究開発拠点を起爆剤に、医療やロボット、再生可能エネルギーなど、世界市場も見据えた先端産業の集積を進め、福島産業に革命を起こします。

### ◆内外を結び飛躍に向かう県土基盤を創ります！

「災害から命を守る」「広域交流、観光」「過疎・中山間地域の活力」など様々な観点から、道路、鉄道、空港、港湾など県内交通基盤の確保や活用により力を尽くします。

**主な経歴**  
昭和39年3月生まれ、東京大学経済学部卒業、昭和61年自治省現職務参入省・大蔵省主計局法規課課長補佐・総務省自治財政局地方債課長補佐、平成13年福島県生活環境部長、平成14年福島県生活環境部長、平成16年福島県企画調整部長、平成18年、福島県副知事

## 皆さん、このままでいいのですか?!



ふくしま県民のわ・ネットワーク

くまさが

義裕 62歳

医師として、医療福祉政策のプロだから!!

少子・高齢社会への対応強化

子どもを産み育てるための環境整備

地域包括ケアシステムの確立

教育の充実

地域経営の達人だから!!

未来につながる産業・雇用創造

「浜・中・会津成長戦略(仮称)」で活性化

全県域に復興予算の活用

商工業経営強化支援

農林水産業の再生・強化と6次産業化

福島県人だから!!

原発被害対策の総見直し

「原発事故子ども被災者支援法」の理念の下、放射線を受けて暮らす権利を保障

原発事故に関するあらゆる情報の全面開示

県民全員への心を込めた自立・再生支援

お医者さんだから心ケアと福祉を充実させて欲しい。

とにかく、雇用や商売・農業がうまくいく方策を出して!

原発事故で人生観が変わりました。あたらしい福島にしてください。

何のしがらみもないさわやかな人に任せたい!

これからの4年間、このままでいいはずがありません。変えるなら今でしょう!

国に直言!

いのち

暮らし

脱原発

福島県人

医師

市長(3期)

無所属

この選挙公報は、候補者から法定期限内に提出された原稿をそのまま写真にとり、印刷したものです。候補者等が選挙公報を印刷して頒布すること等は、選挙運動用文書図画の規制等の規定に抵触するおそれがあります。



平成26年10月26日執行

# 福島県知事選挙選挙公報

福島県選挙管理委員会



## 井戸川 かつたか

六十八歳

**主な経歴**  
前双葉町長  
元双葉地方町村会会長  
元双葉地方広域圏組合管理者  
一九四六年 福島県双葉町に生まれる  
福島県立小高工業高等学校 卒業

放射能はキケンだ！健康を守り、生活を再建します。  
世界最大の原発事故には、世界最大の救済を実行します。

### ① 「100 ミリシーベルト以下なら発がんはない」という誤りをただし健康を守ります。

- ◎今すぐ避難計画・二十ミリシーベルト基準を見直します。県民が放射線の安全基準を判断します。このための委員会をもちかけます。1ミリシーベルト以下をめざすことはゆずりません。
- ◎健康手帳を1ミリシーベルト以上の地域にいた人に交付します。無料の健診と医療をおこないます。
- ◎十八歳以下の甲状腺ガン 一〇三人の調査結果は原発事故と関係があるので、県民健康(管理)調査は検証し廃止します。健康調査・対策委員会を作ります。
- ◎大切な被ばく作業員の健康を守ります。
- ◎避難すること、もどることは、県が正しい情報を公開し、県民と話し合い、県民が判断できるようにします。

### ② 完全賠償をもとめ、生活を守ります。平和と希望、未来の福島をつくります。

- ◎県民主導の原発被害解消委員会をつくり、県が事故被害算定し、東京電力と国に賠償と補償をもとめます。
- ◎仮設住宅からあと二年以内に出られるようにします。
- ◎県土にある放射性物質は東電に全部かたづけさせます。
- ◎一〇〇年計画をつくる県民会議をつくります。福島復興隊をつくります。
- ◎子ども・被災者支援法の理念は、県条例で実現します。
- ◎少子化を止めるために高汚染地域から子どもを疎開させます。
- ◎県が自然再生エネルギー電力会社をつくります。福島の伝統文化を商品にします。

### ③ 正しい情報を示し、県民が正しい判断をできるようにします。

- ◎スピーディ(放射能影響予測)をかくし、被ばくをさげられなかったことを検証し謝罪します。原発事故の情報は開示し、目かくしを外します。
- ◎原発事故は終わっていません。今も多くの放射性物質が出ています。除染に終わりがありません。どこが危険かわかるように、情報発信検討会議をつくります。



知事になったら、県民のみなさんにこれ以上がまんさせません。国・東電にどんどん言います。知事の給料と賞与は70%カットします。



## 金子よしなお

五十八歳

**◎主な経歴**  
一九五六年(昭和三十一年)福島県白河市生まれ  
福島県立白河高等学校卒  
早稲田大学理工学部建築学科卒  
現在、会社社長(三金興業株式会社・白河市本社)五十八才

### 「遅すぎる福島復興」の加速と新たな「チャレンジ」!

- ・原発事故の収束と、タテ割り行政を一掃した除染処理の加速
- ・脱原発と自然再生エネルギーへの転換
- ・安心して産がでる環境の整備(産婦人科医の拡充)
- ・子育て支援(子どもと保護者へ、心ある支援と減税の実施)
- ・徹底したチェックに基づく食の安全の実現と、風評被害の根絶
- ・福島への首都機能移転推進の復活
- ・二〇二〇東京オリンピックの積極的活用
- ・県内への新設・移転企業(本社・長期継続)への大胆な減税の実施

### ◎私の公約

### 「59市町村」の生活を守る決意と「お役所仕事の一掃」!

- ・県内59市町村の個性・状況に応じた自立発展へのきめ細やかな支援(県民の生活を守り抜く決意!)
- ・原発避難者への丁寧な対応、故郷愛維持への環境整備
- ・人を活かした県庁づくりと、組織の活性化
- ・(民の発想を導入し、無駄の排除・スピードアップ・時間コスト感覚の徹底)
- ・県庁所在地(中長期計画の立案)と組織の見直し

### 「県民の自立」の実現と「ふくしま愛」応援!

- ・県民投票の導入(脱原発・県庁所在地決定等、全県的案件において実施)
- ・困難を乗り越える強さを持った人づくりと、教員現場支援
- ・若者が将来の故郷に希望を持って暮らしていける県土づくり(愛着と誇りの喚起・地域教育)
- ・福島文化ルネッサンス(世界的芸術家と英知の招へい、「福島ゴジラ空港」へ改称、他)
- ・幸せや生き方の新しい価値創造(福島幸せ指数 Gross Fukushima Happiness)
- ・若年層の柔軟な発想に耳を傾け、県政に取り入れる
- ・(「福島スチューデントサミット」、他)

無党派代表、ふくしま人。  
無名ですが、本気です。  
金子よしなおに、期待してください。

## 無党派 ふくしま人

金子よしなお ホームページ  
<http://kaneko-yoshinao.com>

## 福島復興7本の柱

- 命をつなぐ福島**  
関連死の人がもう増えてほしくない。命が繋がってほしい。
- 家族をつなぐ福島**  
避難生活で家族がバラバラの生活をされている人がいます。一日も早く家族が一つになれる日が来てほしい。
- 故郷をつなぐ福島**  
故郷から離れて住むようになった人達がいます。いつか自分の今日に戻れる日がきてほしい。そんな可能性を見つけたい。
- 世界をつなぐ福島**  
原発問題でいまや世界の福島になりました。これで世界の人たちに協力してもらい最短での原発問題の解決を探し、子供たちを世界に送り出せるようにしたい。
- 未来をつなぐ福島**  
子供たちが生まれて良かった、住んで良かったって思えるそんな場所にしたい。子供たちが安心して住める場所を残したい。
- 世代をつなぐ福島**  
震災前から過疎化していた地域もあります。復興が遅れることで世代間の分離が起きないように。世代が一緒に住めるコミュニティができてほしい。
- 希望をつなぐ福島**  
被災者のかただけではなく、ご老人のかたや障がい者のかたたち、すべての人が希望をもって、生きていける福島になってほしい。



## いからし よしなお

無所属

## 『涙が真珠に変わる場所 福島』

一部の人たちだけで何かが決まってしまう、そんな政治をもう止めにしたいと思いませんか？  
震災による関連死の人達が増えていくのを見て、もうこれ以上、政治を放置することはできません。  
対話をしなければ、もうあきらめるしかないんじゃないでしょうか。  
どんだん人が死んで行くだけになるんじゃないでしょうか。  
子供たちにもコンクリート以外の何かを、何も残せないんじゃないでしょうか。  
いま、あきらめるのはまだ早いです。  
地震、津波、原発事故で大きな痛みを負った私たちの涙・・・  
それぞれ傷ついてきた思い出や経験があります。  
私も震災発生2ヶ月後、娘が突然死になりました。  
被災者の方達の気持ちを分かっていたつもりでしたが、本当はなにも分かっていないことに気づきました。  
本当は一人一人の痛みは誰もわからないんだってやっと気づきました。  
本当はみんな言いたいこともちゃんと言えないで、心の中にしまっていることが分かりました。  
本当は被災者とそうじゃない人だけではなく  
子供も大人もご老人も、健康者も障害者のかたも、日本人もそれ以外の国の人も  
本当は誰にも言えていない思いがあるんじゃないでしょうか。  
声に出せないで抱えている痛みを、表に出せるように。  
それを、誰かを助け、誰かを慰めるものに変えて行きたい。  
抱えていた苦しみや思いを表現することで復興のための土台にしたい。  
みんなの思いや声をつなげる対話型の政治。  
古い政治から新しい政治へ。  
それが未来の福島を作る宝になると私は信じています。  
それが日本を変え、世界を変えるんです。  
その時、みんなの涙が真珠のように輝き出すのだと信じています。



いからしよしなお  検索 <http://ikarashiyoshitaka.club>